

日本、韓国、及び台湾における 障害児・者に対する態度に関する比較文化的研究

三 澤 義 一 ・ 中 司 利 一 ・ 川 間 健之介*

SD法によって、日本、韓国、及び台湾における障害児・者を表わすことばに対する大学生のイメージが調査された。

研究の対象とされたことばは、「健常児」「老人」「孤児」「精神薄弱児」「肢体不自由児」「盲児」であった。

日本の大学生のイメージと、それぞれのことばを構成する主要な意味空間を示す因子は次のようであった。精神薄弱児一遅くて、弱い、しかし、明るくて、陽気な子ども(評価性因子)。肢体不自由児一遅くて、悲しい、病気の子ども、しかし、陽気で、身近かな子ども(性格行動因子)。盲児一遅く、弱い、静かな子ども(健康・力量性因子)。

これらは、明るい、陽気な、身近かな、という尺度で得点が高いこと、健常児等で見いだされた因子の数が多いこと、すべてのことばにおける第I因子が障害因子でなかったことなどにおいて、韓国と台湾の大学生によるイメージと異なっていた。

研究目的

わが国における障害児・者の教育と福祉は近年著しく発達し、とりわけ法律や制度の面ではめざましいものがある。しかし、その基盤となる一般社会の人々の障害児・者に対する意識や態度は、かならずしもまだ適切でなく、考慮すべき点多多残されていると言われている。教育や福祉の効果的な実践は社会の協力を依存するから、それらの最近の実態を明らかにして、その対策を講ずることはきわめて重要なことである。

ところで、これまで障害児・者に対する態度に関する研究は、日本国内での研究が大半をなし、Cross-Cultural Study はほとんどみられず、たとえあっても、歴史や文化等で著しく異なった欧米諸国とであって、アジア諸国との比較研究は皆無であった。それらの研究に加えて、わが国の実態を、近隣諸国の一つであり、かつわが国と同様過去に仏教や儒教の影響を受けて発達した、韓国及び台湾と比較した研究を行えば、日本における障害児・者に対する一般の人々の態度を一層明らかにすることができよう。

研究目的は次の通りである。日本、韓国、及び

台湾における障害児・者を示すことばに対する大学生のイメージを調査し、日本は他の二か国と比較して、どのような特徴を持っているか明らかにすること。

研究方法

(1) 研究方法 障害児・者に対する態度についての研究はこれまで、質問紙や絵による方法などさまざまな方法で行われてきた。しかし、岩下豊彦(1983)や高木修(1976)によれば、SD法がイメージの研究に適しており、Cross-Cultural Studyでも効果的であると考えられたので、本研究はSD法による障害児・者ということばに対するイメージの調査によって、障害児・者に対する態度について研究することにした。SD法とは、概念に付随した情緒的内包的意味を定量的に測定し、概念別にプロフィールを描いたり、その結果を因子分析して、調査対象別にそれぞれの意味空間を明らかにすることによって、イメージを明らかにする研究方法である。

本研究では概念として、「精神薄弱児」「肢体不自由児」「盲児」の三つの障害児を表わすことばと、

比較対照のための、「健常児」「老人」「孤児」の三つのことばを選んだ。

そして、「次のことばから連想される形容詞をできるだけたくさんあげてください。」という指示の調査用紙による予備調査を行い、その結果得られた、各概念と関係した形容詞に、これまでの研究で明らかにされた三つの意味尺度、評価、力量、活動性、を代表する一般的な形容詞を加えて、別表のような40対の形容詞の尺度からなる調査用紙を作成した。

それぞれの尺度は、「まったく」「かなり」「やや」「どちらでもない」の程度が示されていて、二つの対立する形容詞の間で、該当する場所にするしをつけるようになっていて、統計的な処理では左側の形容詞から右側の形容詞へ、順に1点ずつ1から7までの7段階の得点が与えられる。

この統計的な処理に際しては、Cross-Disabilityの比較を可能とするため、40対の尺度の中から、全概念に共通する尺度だけ、計13対を選び、それぞれの平均や標準偏差の算出、及び因子分析を行った。それは、概念の違いによって、多くの尺度が違っていたので、これらの尺度によって各概念を比較することは困難であったからである。それらの結果や各概念で出現した独自の意味空間についての報告は別報で行う予定である。因子分析は、バリマックス法で、SPSSパッケージを利用し、筑波大学学術情報処理センターFACOM-Mを使用した。

(2) 研究対象 調査対象は、日本は関東地方の2か所の大学、韓国は3つの都市の4か所の大学、台湾は4つの都市の4か所の大学で、表1の通りである。韓国での調査は、日本語に堪能な心身障害学専攻の韓国からの留学大学院生2名によって韓国語に翻訳された調査用紙を使用して、訪韓した共同研究者の一名によって翻訳者の援助のもと

表1. 被験者(人)

	日本	韓国	台湾
男	101	128	53
女	158	169	77
計	259	297	130
平均年齢	20.1	21.4	22.3

に実施され、台湾での調査は、同じく日本語がすぐれた台湾からの留学大学院生と、台湾の大学教授によって中国語に翻訳された調査用紙を使用して、この場合は研究に協力をいただいた大学教授によって実施された。

研究結果

(1) 概念のプロフィール

表2から表7までに、国別の各概念における各尺度ごとの得点の平均と標準偏差を、図1から図6までに、国別に描いた各概念のプロフィールを示す。このほか、国別の各概念における各尺度間の差のt検定と、日本における「健常児」で得られた各尺度の得点と、国別の各概念における各尺度で得られた得点の差のt検定の結果の表を作成したが紙面の都合で省略する。これらのプロフィールや検定の結果から、各概念について次のようなことが言える。

「健常児」 健常児は、日本では、「健康で、明るく、陽気で、身近かな、騒がしい存在である」というイメージが持たれている。一方、韓国でのイメージは、静かなー騒がしいと軽いー重い尺度を除いて、すべての尺度でややプラスの方向にある子どもというものであり、台湾でのイメージもほぼ同様である。

日本と他の二か国との間にはいくつかの違いが見られ、日本は他の二国と比べて、健常児は、健康で身近かな存在ではあるが、それほど良くなく、美しくなく、静かでないと感じられている。韓国と台湾のイメージはかなり類似しているが、早いー遅いの尺度については異なっていて、台湾では韓国や日本ほど早いとはされていない。

「老人」 日本での老人のイメージは、「遅く、弱く、軽くて、小さい、病気の存在であるが、静かで、身近かな、良い存在である」というものである。健康児とはかなりの違いがあり、すべての尺度で平均に2%以下の有意差があったが、特に大差がみられたのは、遅い、暗い、弱い、静かな、病気の、陰気なという尺度であった。

韓国での老人のイメージは、「遅く、暗く、陰気で、弱い、病気の存在ではあるが、静かで、良く、快的な、身近かの存在である」というものであり、一方台湾では、「遅く、軽くて、弱い、静かで、良い存在である」というものであった。

表2. 健 常 児

	日 本 N = 2 5 7		韓 国 N = 2 8 7		台 湾 N = 1 3 0	
	M	SD	M	SD	M	SD
良い—悪い	3.15	1.23	2.65	1.16	2.74	1.20
美しい—醜い	3.30	1.04	2.90	1.11	2.69	1.13
快—不快	2.81	1.19	2.77	1.36	2.72	1.16
早い—遅い	2.91	1.20	2.89	1.18	3.48	1.01
明るい—暗い	2.39	1.08	2.69	1.52	2.53	1.24
強い—弱い	3.19	1.42	2.93	1.26	3.01	1.18
静かな—騒しい	5.24	1.26	4.17	1.58	4.08	1.35
うれしい—悲しい	2.80	1.17	2.80	1.19	2.74	1.12
大きい—小さい	3.26	1.18	3.40	1.09	3.42	1.12
健康な—病気の	1.89	1.05	2.73	1.43	2.64	1.10
陽気な—陰気な	2.53	1.07	2.67	1.25	2.66	1.03
身近かな—かけ離れた	1.68	1.00	2.56	1.20	3.08	1.12
軽い—重い	3.87	1.15	3.58	1.27	3.97	1.04

表3. 老 人

	日 本 N = 2 5 7		韓 国 N = 2 8 8		台 湾 N = 1 2 0	
	M	SD	M	SD	M	SD
良い—悪い	3.39	0.97	2.88	0.99	2.62	1.00
美しい—醜い	4.24	0.90	4.19	0.89	3.55	1.37
快—不快	3.95	0.87	3.23	1.03	4.30	1.38
早い—遅い	5.65	0.97	5.63	0.97	5.27	1.30
明るい—暗い	4.33	1.10	4.75	1.08	3.97	1.41
強い—弱い	5.47	1.28	5.06	1.28	4.96	1.26
静かな—騒しい	2.86	1.28	2.56	1.24	3.09	1.28
うれしい—悲しい	4.52	1.10	4.52	1.09	3.99	1.34
大きい—小さい	5.25	1.23	4.15	1.33	3.80	1.17
健康な—病気の	4.90	1.11	4.87	0.97	4.51	1.23
陽気な—陰気な	4.28	1.03	4.81	1.05	4.56	1.14
身近かな—かけ離れた	3.01	1.59	3.60	1.51	4.27	1.32
軽い—重い	2.47	1.51	3.36	1.40	2.76	1.12

表4. 孤 児

	日 本 N = 2 5 6		韓 国 N = 2 9 6		台 湾 N = 1 2 2	
	M	SD	M	SD	M	SD
良い—悪い	4.33	1.02	4.93	1.05	4.34	1.05
美しい—醜い	3.82	0.77	4.47	0.92	4.20	1.00
快—不快	3.96	0.92	4.57	0.92	4.80	1.11
早い—遅い	3.22	0.97	3.29	1.13	4.23	1.01
明るい—暗い	4.70	1.32	5.44	1.06	4.39	1.20
強い—弱い	3.13	1.54	3.39	1.63	4.31	1.29
静かな—騒しい	3.76	1.21	3.97	1.44	4.15	1.13
うれしい—悲しい	5.08	1.05	5.21	1.05	4.84	1.15
大きい—小さい	4.46	1.12	4.48	1.15	4.48	1.10
健康な—病気の	3.06	1.25	3.62	1.27	4.18	1.20
陽気な—陰気な	4.16	1.38	5.15	1.08	4.79	1.19
身近かな—かけ離れた	4.34	1.48	4.31	1.19	4.43	1.20
軽い—重い	4.13	1.04	3.54	1.26	4.08	0.86

表5. 精神薄弱児

	日 本 N = 2 5 6		韓 国 N = 2 9 1		台 湾 N = 1 2 7	
	M	SD	M	SD	M	SD
良い—悪い	4.32	0.97	4.84	1.29	4.38	1.28
美しい—醜い	3.84	1.20	4.59	1.14	4.18	1.14
快—不快	4.24	0.87	4.52	1.18	4.87	1.30
早い—遅い	5.52	1.02	5.46	1.03	4.54	1.24
明るい—暗い	3.48	1.51	4.91	1.48	4.38	1.43
強い—弱い	4.87	1.52	4.82	1.55	4.87	1.30
静かな—騒しい	4.65	1.26	4.52	1.54	4.50	1.44
うれしい—悲しい	4.47	1.25	4.75	1.48	4.69	1.33
大きい—小さい	4.58	1.31	4.32	1.20	4.61	1.11
健康な—病気の	4.56	1.37	4.64	1.47	4.69	1.19
陽気な—陰気な	3.09	1.37	4.63	1.55	4.28	1.33
身近かな—かけ離れた	3.91	1.67	4.60	1.32	4.79	1.42
軽い—重い	4.44	1.51	4.31	1.44	4.13	1.24

表6. 肢体不自由児

	日 本 N=256		韓 国 N=293		台 湾 N=124	
	M	SD	M	SD	M	SD
良い-悪い	4.27	1.03	4.68	1.18	4.40	0.99
美しい-醜い	4.14	0.91	4.48	0.86	4.33	0.95
快-不快	4.12	0.89	4.40	0.93	5.06	1.10
早い-遅い	5.41	0.89	5.19	1.05	4.40	1.19
明るい-暗い	3.69	1.39	5.10	1.09	4.52	1.32
強い-弱い	3.99	1.70	4.17	1.69	4.73	1.16
静かな-騒しい	3.71	1.07	3.49	1.35	3.93	1.09
うれしい-悲しい	4.68	1.05	5.04	1.23	4.63	1.19
大きい-小さい	4.28	1.36	4.70	1.16	4.66	1.17
健康な-病気の	4.59	1.25	4.77	1.30	4.40	1.20
陽気な-陰気な	3.32	1.23	4.83	1.43	4.94	1.27
身近かな-かけ離れた	3.55	1.61	4.16	1.34	4.32	1.09
軽い-重い	4.59	1.40	4.60	1.17	4.29	1.12

表7. 盲 児

	日 本 N=254		韓 国 N=288		台 湾 N=127	
	M	SD	M	SD	M	SD
良い-悪い	4.15	1.10	4.63	1.34	4.33	1.32
美しい-醜い	3.80	0.84	4.38	0.89	4.20	1.05
快-不快	3.94	0.83	4.16	1.01	5.09	1.25
早い-遅い	5.15	1.05	4.81	1.52	4.45	1.16
明るい-暗い	4.50	1.52	5.24	1.73	5.45	1.34
強い-弱い	4.76	1.74	4.30	1.61	4.85	1.36
静かな-騒しい	2.67	1.21	2.83	1.28	3.49	1.41
うれしい-悲しい	4.69	1.18	4.93	1.41	4.93	1.18
大きい-小さい	4.61	1.16	4.26	1.11	4.31	1.06
健康な-病気の	4.28	1.35	4.61	1.27	4.54	1.24
陽気な-陰気な	4.06	1.32	5.03	1.20	5.01	1.13
身近かな-かけ離れた	4.20	1.56	4.25	1.35	4.42	1.26
軽い-重い	4.45	1.29	3.30	1.36	4.23	1.24

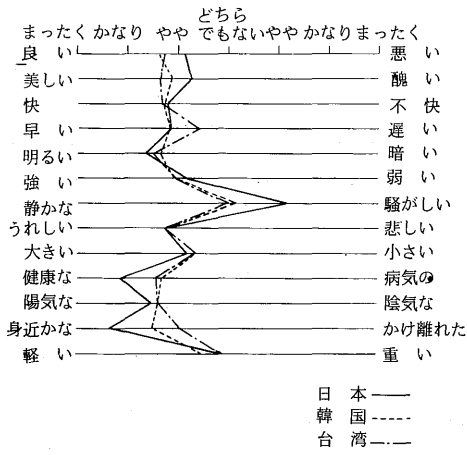


図1. 「健常児」

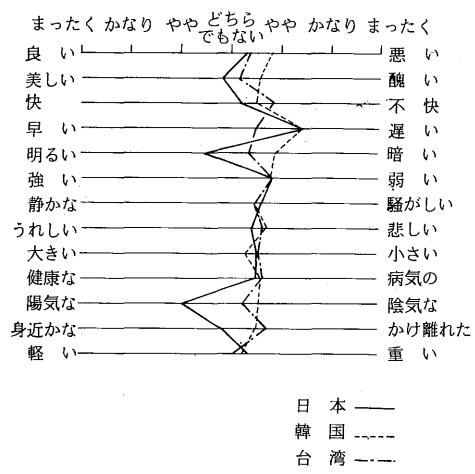


図4. 「精神薄弱児」

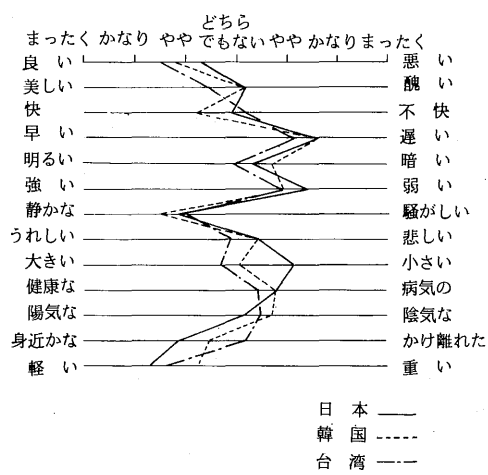


図2. 「老人」

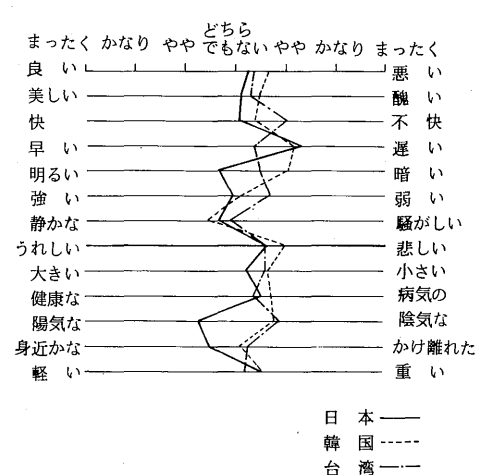


図5. 「肢体不自由児」

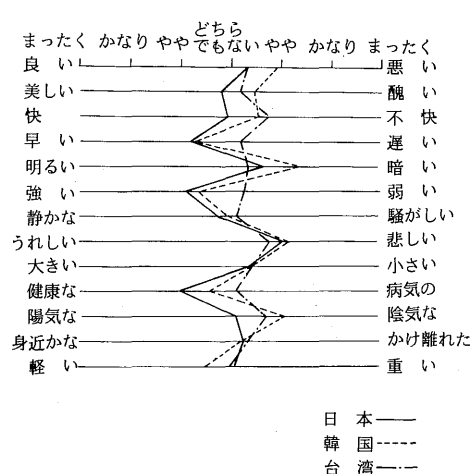


図3. 「孤児」

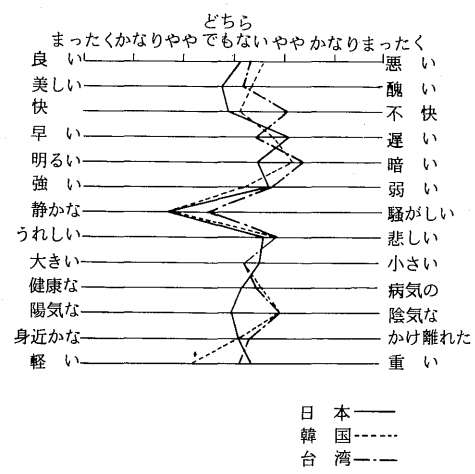


図6. 「盲児」

日本は他の二か国とは、良い、快、明るい、強い、大きい、陰気な、身近かなという尺度で、平均に2%レベルの有意差がみられた。快及び明るいでは二か国の中間にあったが、他の尺度ではプラスまたはマイナスの方向で最も大なる傾向がみられ、日本は他の二か国と比べて、老人を、弱く、小さい存在ではあるが、身近かな存在であるとしている。台湾にも特徴がみられ、老人を、他の二か国よりも、美しく、大きな存在であるが、かけ離れた存在であるとしている。

「孤児」日本における孤児のイメージは次のようであると考えられる。「やや暗く、悲しいけれども、強く、健康な子ども」。孤児を健常児と比較すると、強い—弱い尺度を除いて、すべての尺度で1%レベル以下で有意差が認められた。とりわけ大きな差がみられたのは、暗い、悲しい、小さい、陰気な、かけ離れたという形容詞であった。

韓国での孤児のイメージは、「悪く、暗く、悲しく、陰気ではあるが、軽く、早く、強く、健康な子ども」であり、台湾でのイメージは、「やや不快で、悲しく、陰気な子ども」である。

日本と他の二か国との比較では、二か国ともに有意差がみられたのは、美しい、快、明るい、強い、健康な、陽気な等の形容詞に関する尺度で、まったく有意差がみられなかったのは、大きい、身近かなの2つの形容詞に関する尺度であった。これらの結果から、日本は、他の二か国よりも、孤児を美しく、快で、強く、陰気で、健康な子どもであると見ている傾向がうかがえる。三か国のプロフィールには特徴があり、台湾の場合、日本及び韓国とは異なったほぼ直線状のプロフィールが得られた。このことは台湾では孤児のイメージには、他の二か国と比較して、特別な特徴が持たれていないことを物語っている。

「精神薄弱児」精神薄弱児は、日本では、「遅くて、弱い、明るくて、陽気な子ども」というイメージが持たれていた。この精神薄弱児に対するイメージを健常児に対するイメージと比較すると、平均値間にすべての尺度で1%レベルで有意差が得られ、特に、早い—遅い、健常な—病気の、身近かな—かけ離れたという尺度で著しい違いが認められた。精神薄弱児は、すべての尺度でマイナスの方向にあり、健常児と比較すると、特に、

遅く、かけ離れた、病気の子ともであるとみられていることがわかった。

一方、韓国では、精神薄弱児は、「いずれの尺度でもマイナスの方向にあって、特徴をあげれば遅い子どもである」とみられており、台湾でも同様に「すべての尺度でマイナスの方向にある子どもである」というイメージが持たれている。ただし、韓国とちがって特別な特徴は認められない。

三か国を比較すると、大きな違いが見い出された。それは、日本と他の二国との違いであって、明るい—暗い及び陽気な—陰気なと、身近かな—かけ離れたの尺度についてであった。これらの尺度での差異から、日本は、他の二か国と比べて、精神薄弱児をより明るく陽気で身近かな子どもであるとみている傾向がうかがえる。

「肢体不自由児」日本における肢体不自由児のイメージは、「遅い、悲しい、病気の子とも。しかし、一方、陽気な、身近かな子ども」というものであった。健常児とはすべての尺度で顕著な違いがあり、特に、遅い、病気の、という形容詞で差が激しかった。

韓国でのイメージは、「遅く、暗く、悲しく、陽気な、病気の、静かな子ども」であり、台湾でのイメージは、「不快で、陰気な、静かな子ども」である。

他の二か国と比較すると、日本のイメージには幾分違った傾向が認められ、一部の尺度を除外して、たとえば他の二か国よりも、良い、美しい、快であるというように、多くの尺度でプラスの方向にあった。特に、明るい—暗い、陽気な—陰気な、及び身近かな—かけ離れたという3尺度では著しい差がみられ、日本では、肢体不自由児に対して、他の二か国と比較して、明るく、陽気で、身近かな存在としてのイメージが持たれているのが特徴的である。

「盲児」盲児のイメージは、日本では、「遅い、弱い、静かな子ども」であった。このイメージを健常児と比較すると、他の障害児の場合と同様すべての尺度で1%レベルで有意差がみられたが、特に、遅い、暗い、静かな、病気の、陰気な、かけ離れた等での形容詞で大きな差が認められ、静かなを除いて、すべてかなりマイナスの方向にあった。

これに対して、韓国では、「暗い、悲しい、陰気

な、静かな、軽い子ども」というイメージが持たれており、一方、台湾では、「暗い、不快な、悲しい、陰気な子ども」というイメージが持たれている。日本と韓国及び台湾の三か国のプロフィールを比較すると、日本は他の二か国とほぼ同様のプロフィールを描いていることがわかった。しかし、仔細にみると幾分違いが見いだされた。特に大きな違いは、明るい-暗いと陽気な-陰気な尺度で、日本は他の二か国よりも、それぞれの尺度で得点がきわめて低かった。このことから、日本は韓国と台湾と比べて、盲児を明るく、陽気な子どもであると見ている傾向をうかがうことができる。また、韓国では軽い、台湾では不快という形容詞で、盲児のイメージを作り上げている点に特徴がみられる。

(2) 概念の意味空間

表8から表13までに、日本の大学生による障害児・者を表わすことばについてのイメージの、表14から表19までに韓国の大学生によるイメージの、表20から表25までに台湾の大学生によるイメージの、バリマックス回転後の因子分析の結果を示す。

①日本における障害児・者に関することばの意味空間

「健常児」 全部で4つの因子が見いだされたが、第I因子が70%以上の寄与率を占めており、それぞれの因子は、0.5以上の負荷量を持つ尺度にもとづいて次のように解釈することができよう。I-評価性の因子、II-健康、性格行動に関する因子、III-力量性の因子、IV-活動性の因子。

「老人」 3つの因子で構成されており、第I因子は65.5%の寄与率で、強い、大きいなどの力量を表わす尺度と特に大きな関係がみられた。第II因子には、陰気、暗い、悲しいなどの尺度が高い負荷量を示し、さらに病気の尺度もある程度の負荷量を示していた。これらの尺度によって形成されるイメージは、これまで障害児・者に対して持たれたステレオタイプの暗いイメージと同じものである。そこで、第II因子を障害因子とよぶことにする。各因子は、I-力量性の因子、II-障害因子、III-評価性の因子とそれぞれ解釈される。

「孤児」 孤児は4つの因子で構成されていて、第I因子の寄与率は59.6%で、他の概念ほどは大

きな割合を占めていない。同様に0.5%以上の負荷量をもつ尺度を手がかりにすると、第I因子は評価性の因子、第II因子は性格行動に関する評価性の因子、第III因子は健康・活動性の因子、第IV因子は力量性の因子と名づけることができよう。

「精神薄弱児」 これは3つの因子で構成されていて、第I因子の寄与率は65.9%とかなり高い。各因子と関係ある尺度から、I-評価性の因子、II-性格行動の因子、III-力量性の因子と推察される。

「肢体不自由児」 第I因子が70%以上を占めており、3つの因子によって構成されている。それぞれの因子は、I-性格行動の因子、II-評価性の因子、III-健康・活動性の因子と解釈される。

「盲児」 盲児では第I因子の寄与率が77.2%と圧倒的に高かった。しかし、その因子に特に高い負荷量を示す尺度は見当たらなかった。0.5以上の負荷量を持つ尺度の中で他の因子とは比較的關係の薄い尺度は、強い-弱いや大きい-小さいで、これらの結果から、健康・力量性の因子と名づけることにする。第II因子は性格行動の因子、第III因子は活動性の因子と思われる。

②韓国における障害児・者に関することばの意味空間

「健常児」 日本と異なって、韓国では2つの因子だけがあらわれ、第I因子が88.8%もの高寄与率を占めていて、評価・力量・活動性を示すすべての尺度に高い負荷量を持っているのが特徴的であった。第I因子は、評価、力量、活動性すべてに関係した総合的因子、第II因子は健康・活動性の因子と解釈される。

「老人」 全部で3つの因子が見いだされた。それぞれ、I-障害因子、II-評価性の因子、III-力量性の因子と考えられる。第I因子の寄与率は61.1%であった。

「孤児」 孤児も老人と同様に3つの因子があらわれた。第I因子は活動性の因子、第II因子は性格行動に関する評価性の因子、第III因子は健康・力量・活動性に関する因子と推察される。

「精神薄弱児」 これも3つの因子があらわれたが、ほかの概念の場合と同様に第I因子がかなり多くの割合を占めていて、その寄与率は71.6%であった。第I因子は日本の第II因子と似ているところもあるが、うれしい-悲しいや健康な-病

表8. 日本 Concept 「健全児」

尺度	因子負荷量				h ²
	I	II	III	IV	
快 ・ 不快	.658	.414	.017	.113	.617
美しい・醜い	.620	.178	.070	.067	.425
うれしい・悲しい	.594	.170	.290	-.261	.534
良い・悪い	.562	.129	.249	.015	.395
身近かな・かけ離れた	.302	.187	.199	-.089	.174
明るい・暗い	.317	.697	.083	-.072	.598
健康な・病気の	.188	.624	.424	-.005	.605
陽気な・陰気な	.342	.588	.320	-.073	.571
早い・遅い	.207	.454	.343	-.125	.382
強い・弱い	.124	.228	.622	.117	.468
大きい・小さい	.371	.088	.452	.025	.350
静かな・さわがしい	-.028	-.340	.080	.517	.390
軽い・重い	.011	.031	.006	.323	.105
固有値	3.964	0.712	.586	0.352	
X of C (Σh ²)	70.6	12.7	10.4	6.3	

表10. 日本 Concept 「孤児」

尺度	因子負荷量				h ²
	I	II	III	IV	
快 ・ 不快	.660	.173	.342	.133	.600
良い・悪い	.641	.262	.085	.101	.497
美しい・醜い	.601	-.093	.450	.181	.605
軽い・重い	.232	.162	-.094	-.153	.113
明るい・暗い	.379	.670	.252	.087	.664
陽気な・陰気な	.354	.601	.303	.065	.583
静かな・さわがしい	.009	-.448	.007	-.002	.201
うれしい・悲しい	.357	.427	-.076	.388	.466
身近かな・かけ離れた	.102	.212	.162	.200	.121
健康な・病気の	.255	.134	.571	.043	.410
早い・遅い	.010	.032	.522	-.023	.274
強い・弱い	.075	.081	.510	.234	.327
大きい・小さい	.081	.046	.129	.944	.917
固有値	3.442	0.971	0.858	0.508	
X of C (Σh ²)	59.6	16.8	14.8	8.8	

表9. 日本 Concept 「老人」

尺度	因子負荷量				h ²
	I	II	III	IV	
強い・弱い	.819	.081	.124		.693
大きい・小さい	.624	.175	.136		.438
健康な・病気の	.482	.395	.145		.411
早い・遅い	.464	-.008	.280		.294
軽い・重い	.322	.059	-.034		.108
静かな・さわがしい	-.298	-.106	.212		.145
陽気な・陰気な	.199	.721	.197		.599
明るい・暗い	.251	.630	.138		.479
うれしい・悲しい	.251	.630	.138		.364
身近かな・かけ離れた	-.045	.350	.093		.133
快 ・ 不快	.112	.240	.591		.419
美しい・醜い	.092	.234	.540		.355
良い・悪い	.016	.150	.494		.267
固有値	3.084	1.022	0.599		
X of C (Σh ²)	65.5	21.7	12.7		

表11. 日本 Concept 「精神薄弱児」

尺度	因子負荷量				h ²
	I	II	III	IV	
快 ・ 不快	.748	.160	.102		.596
良い・悪い	.626	.088	.118		.413
美しい・醜い	.608	.249	.167		.460
身近かな・かけ離れた	.541	.204	.198		.373
うれしい・悲しい	.359	.278	.260		.274
健康な・病気の	.341	.331	.318		.326
軽い・重い	.197	.001	-.024		.039
陽気な・陰気な	.249	.805	.107		.721
明るい・暗い	.417	.785	.099		.799
静かな・さわがしい	.237	-.295	-.103		.154
強い・弱い	.067	.126	.875		.787
大きい・小さい	-.028	.123	.541		.308
早い・遅い	.259	.007	.383		.214
固有値	3.599	1.046	0.820		
X of C (Σh ²)	65.9	19.1	15.0		

表12. 日本 Concept 「肢体不自由児」

尺 度	因子負荷量				h ²
	I	II	III	IV	
明るい・暗い	.871	.215	.156		.830
陽気な・陰気な	.715	.142	.188		.566
身近かな・かけ離れた	.527	.286	.083		.366
良い・悪い	.258	.624	.138		.475
快 ・ 不快	.359	.609	.058		.503
美しい・醜い	.419	.576	-.022		.508
うれしい・悲しい	.300	.316	.162		.216
軽い・重い	.027	.293	.060		.090
早い・遅い	.038	.396	.605		.525
健康な・病気の	.239	.254	.501		.372
大きい・小さい	.226	.081	.372		.196
強い・弱い	.267	.223	.324		.226
静かな・さわがしい	.016	.086	-.180		.040
固 有 値	3.675	0.700	0.537		
X of C (Σh^2)	74.8	14.2	10.9		

表14. 韓国 Concept 「健常児」

尺 度	因子負荷量				h ²
	I	II	III	IV	
美しい・醜い	.690	.021			.477
快 ・ 不快	.646	.522			.690
陽気な・陰気な	.645	.159			.441
うれしい・悲しい	.619	.485			.619
良い・悪い	.610	.355			.498
早い・遅い	.562	.319			.418
強い・弱い	.542	.134			.312
大きい・小さい	.527	.145			.299
身近かな・かけ離れた	.460	.326			.318
軽い・重い	.384	.296			.235
健康な・病気の	.433	.727			.717
明るい・暗い	.561	.619			.699
静かな・さわがしい	.034	-.569			.325
固 有 値	5.368	0.679			
X of C (Σh^2)	88.8	11.2			

表13. 日本 Concept 「盲児」

尺 度	因子負荷量				h ²
	I	II	III	IV	
健康な・病気の	.572	.301	.059		.421
強い・弱い	.571	.212	-.103		.381
うれしい・悲しい	.567	.364	-.019		.455
大きい・小さい	.551	.090	-.252		.375
早い・遅い	.550	.178	-.196		.372
快 ・ 不快	.458	.444	.250		.470
身近かな・かけ離れた	.426	.269	.050		.257
陽気な・陰気な	.302	.798	-.161		.756
明るい・暗い	.252	.719	-.057		.583
良い・悪い	.419	.495	.292		.505
美しい・醜い	.341	.445	.258		.381
軽い・重い	-.034	.110	.448		.214
静かな・さわがしい	-.130	-.182	.304		.142
固 有 値	4.099	0.753	0.460		
X of C (Σh^2)	77.2	14.2	8.7		

表15. 韓国 Concept 「老人」

尺 度	因子負荷量				h ²
	I	II	III	IV	
陽気な・陰気な	.682	.155	.162		.515
明るい・暗い	.668	.063	.046		.452
うれしい・悲しい	.643	.130	.132		.448
健康な・病気の	.540	.018	.119		.306
早い・遅い	.486	-.015	.037		.237
美しい・醜い	.406	.322	-.076		.321
良い・悪い	.135	.719	.032		.536
快 ・ 不快	.182	.671	.014		.483
静かな・さわがしい	-.066	.404	.019		.168
身近かな・かけ離れた	.299	.302	.101		.191
大きい・小さい	.211	.062	.555		.357
強い・弱い	.395	-.195	.538		.484
軽い・重い	-.054	.069	.419		.184
固 有 値	2.861	1.216	0.605		
X of C (Σh^2)	61.1	26.0	12.9		

表16. 韓国 Concept 「孤児」

尺 度	因子負荷量				h ²
	I	II	III	IV	
快 ・ 不快	.761	.185	.122		.629
美しい・醜い	.677	.245	.085		.525
良い・悪い	.482	.307	-.016		.327
身近かな・かけ離れた	.347	.225	.161		.197
静かな・さわがしい	.313	.048	.190		.137
うれしい・悲しい	.202	.783	.122		.668
陽気な・陰気な	.269	.572	.021		.400
明るい・暗い	.436	.514	.030		.455
大きい・小さい	.185	.399	.333		.304
強い・弱い	.093	.211	.618		.435
軽い・重い	.046	.002	.581		.339
健康な・病気の	.092	.145	.499		.278
早い・遅い	.086	-.062	.489		.250
固 有 値	3.253	1.118	0.574		
X of C (Σh ²)	65.8	22.6	11.6		

表18. 韓国 Concept 「肢体不自由児」

尺 度	因子負荷量				h ²
	I	II	III	IV	
陽気な・陰気な	.670	.354	.114		.587
うれしい・悲しい	.669	.240	.181		.538
健康な・病気の	.657	.277	.228		.561
早い・遅い	.589	.220	.209		.439
強い・弱い	.520	.158	.129		.313
大きい・小さい	.414	.099	.025		.182
快 ・ 不快	.207	.712	.227		.601
明るい・暗い	.446	.572	.048		.528
良い・悪い	.226	.382	.248		.258
軽い・重い	.204	.355	.006		.168
美しい・醜い	.087	.382	.515		.419
身近かな・かけ離れた	.310	.192	.484		.367
静かな・さわがしい	.043	-.008	.333		.113
固 有 値	4.086	0.608	0.380		
X of C (Σh ²)	80.5	12.0	7.5		

表17. 韓国 Concept 「精神薄弱児」

尺 度	因子負荷量				h ²
	I	II	III	IV	
うれしい・悲しい	.767	.212	.213		.679
陽気な・陰気な	.651	.173	.193		.630
明るい・暗い	.717	.272	.196		.626
健康な・病気の	.612	.141	.346		.514
軽い・重い	.321	.028	-.014		.104
美しい・醜い	.158	.747	.080		.590
快 ・ 不快	.340	.590	.187		.499
良い・悪い	.199	.492	.086		.288
身近かな・かけ離れた	.249	.433	.118		.263
静かな・さわがしい	-.121	.308	.135		.128
強い・弱い	.087	.158	.811		.690
早い・遅い	.192	.333	.419		.324
大きい・小さい	.232	.105	.346		.184
固 有 値	3.954	0.902	0.664		
X of C (Σh ²)	71.6	16.3	12.0		

表19. 韓国 Concept 「盲児」

尺 度	因子負荷量				h ²
	I	II	III	IV	
明るい・暗い	.785	.286	.071		.702
良い・悪い	.714	.199	.036		.551
うれしい・悲しい	.626	.542	.094		.695
快 ・ 不快	.598	.249	.054		.423
身近かな・かけ離れた	.512	.292	.117		.361
早い・遅い	.455	.300	.129		.314
美しい・醜い	.243	.117	.007		.073
健康な・病気の	.289	.635	.001		.486
陽気な・陰気な	.300	.614	-.248		.528
強い・弱い	.318	.524	.283		.456
大きい・小さい	.298	.442	.245		.344
静かな・さわがしい	-.053	.033	.479		.234
軽い・重い	.160	.003	.426		.207
固 有 値	4.313	0.600	0.460		
X of C (Σh ²)	80.3	11.2	8.6		

表 20. 台湾 Concept 「健常見」

尺 度	因 子 負 荷 量				h ²
	I	II	III	IV	
健康な・ 病気の	.830	.034			.690
良い・ 悪い	.802	.148			.665
美しい・ 醜い	.767	.146			.609
うれしい・ 悲しい	.765	.388			.624
快 ・ 不快	.743	.388			.703
陽気な・ 陰気な	.721	.150			.543
明るい・ 暗い	.678	.006			.487
身近かな・ かけ離れた	.616	.106			.390
強い・ 弱い	.535	.325			.391
早い・ 遅い	.416	.344			.292
大きい・ 小さい	.220	.796			.681
静かな・ さわがしい	.113	.336			.125
軽い・ 重い	-.039	.332			.112
個 有 値 X of C (Σ h ²)	5.437	0.874			
	86.1	13.9			

表 22. 台湾 Concept 「孤児」

尺 度	因 子 負 荷 量				h ²
	I	II	III	IV	
うれしい・ 悲しい	.776	.185			.638
陽気な・ 陰気な	.756	.166			.599
大きい・ 小さい	.742	.224			.601
快 ・ 不快	.657	.279			.510
明るい・ 暗い	.650	.448			.623
身近かな・ かけ離れた	.509	.385			.407
軽い・ 重い	.423	.237			.235
静かな・ さわがしい	.181	.762			.614
健康な・ 病気の	.201	.719			.558
強い・ 弱い	.436	.649			.611
早い・ 遅い	.247	.599			.420
良い・ 悪い	.158	.507			.282
美しい・ 醜い	.380	.473			.368
個 有 値 X of C (Σ h ²)	5.433	1.033			
	84.0	16.0			

表 21. 台湾 Concept 「老人」

尺 度	因 子 負 荷 量				h ²
	I	II	III	IV	
身近かな・ かけ離れた	.723	.074	.129		.545
陽気な・ 陰気な	.581	.461	.179		.582
軽い・ 重い	.535	.026	.274		.362
健康な・ 病気の	.474	.336	.365		.471
大きい・ 小さい	.422	.280	.129		.273
明るい・ 暗い	.131	.585	.295		.446
快 ・ 不快	.188	.554	.192		.379
静かな・ さわがしい	.064	.407	.025		.170
良い・ 悪い	.071	.394	.045		.162
強い・ 弱い	.238	.012	.750		.619
うれしい・ 悲しい	.213	.169	.448		.274
美しい・ 醜い	.125	.403	.435		.367
早い・ 遅い	.139	.333	.396		.287
個 有 値 X of C (Σ h ²)	3.631	0.736	0.570		
	73.5	14.9	11.6		

表 23. 台湾 Concept 「精神薄弱児」

尺 度	因 子 負 荷 量				h ²
	I	II	III	IV	
美しい・ 醜い	.729	.118	.188		.580
快 ・ 不快	.701	.252	.146		.577
明るい・ 暗い	.640	.337	.035		.525
早い・ 遅い	.617	.238	.273		.512
良い・ 悪い	.535	.162	.385		.461
うれしい・ 悲しい	.274	.609	.212		.491
健康な・ 病気の	.249	.509	.294		.408
静かな・ さわがしい	.379	.475	.050		.372
身近かな・ かけ離れた	.164	.409	.288		.277
陽気な・ 陰気な	-.003	.407	.252		.230
軽い・ 重い	.177	.284	-.064		.116
大きい・ 小さい	.159	.101	.801		.678
強い・ 弱い	.245	.276	.498		.384
個 有 値 X of C (Σ h ²)	4.245	0.801	0.563		
	75.7	14.3	10.0		

表24. 台湾 Concept「肢体不自由児」

尺度	因子 負 荷 量				h ²
	I	II	III	IV	
早い・遅い	.720	.351			.641
強い・弱い	.714	.332			.621
健康な・病気の	.679	.308			.556
うれしい・悲しい	.635	.360			.532
陽気な・陰気な	.538	.458			.499
静かな・さわがしい	.436	.124			.205
身近かな・かけ離れた	.378	.367			.277
明るい・暗い	.361	.696			.615
美しい・醜い	.247	.638			.468
大きい・小さい	.402	.588			.507
快 ・ 不快	.360	.567			.451
軽い・重い	.421	.544			.474
良い・悪い	.118	.458			.224
個 有 値	5.540	0.531			
X of C (Σh ²)	91.3	5.7			

表25. 台湾 Concept「盲児」

尺度	因子 負 荷 量				h ²
	I	II	III	IV	
陽気な・陰気な	.775	.276	.036		.679
うれしい・悲しい	.733	.272	.311		.709
早い・遅い	.655	.106	.410		.609
身近かな・かけ離れた	.589	.139	.254		.431
健康な・病気の	.561	.091	.257		.389
快 ・ 不快	.523	.460	.109		.498
強い・弱い	.508	.219	.177		.337
明るい・暗い	.266	.724	-.089		.603
良い・悪い	.186	.533	.212		.364
美しい・醜い	.031	.520	.644		.685
静かな・さわがしい	.183	-.108	.528		.324
大きい・小さい	.349	.232	.479		.405
軽い・重い	.277	.113	.424		.270
個 有 値	4.715	0.832	0.754		
X of C (Σh ²)	74.8	13.2	12.0		

気という尺度も高い負荷量を示しているから、典型的な障害因子だと思われる。I-障害因子、II-評価性因子、III-力量性因子と解釈することができる。

「肢体不自由児」 肢体不自由児の場合も第I因子が80.5%もの寄与率を占めていて、意味空間のかなりの割合を構成していた。第I因子と特に関係の深い尺度は、障害のスレオタイプと活動性及び力量性を意味する尺度である。このことから第I因子は障害・活動性・力量性の因子であると考えられる。第I因子を入れて3つの因子が出現したが、第II因子は評価性因子、第III因子も評価性因子と考えられる。

「盲児」 第I因子は評価性因子、第II因子は障害・力量性の因子、第III因子は活動性・力量性の因子と推察される。第I因子は80.3%の寄与率を示していた。

③台湾における障害児・者に関することばの意味空間

「健常児」 韓国と同様に2つの因子だけが登場し、第I因子は86.1%もの高寄与率を示し、健康、評価、力量等の尺度によって多くの負荷量が占められていた。I-総合的因子、II-力量性因子と名づけることができる。

「老人」 因子の数は日本及び韓国と同数の3つであったが、特徴的な因子が見いだされた。それは第I因子で、身近かな-かけ離れた、軽い-重い尺度によって多くの負荷量が占められていたものである。これは他の二か国には見られなかった結果である。I-隔絶の因子、II-評価性の因子、III-力量性の因子とよぶ。

「孤児」 第I因子は評価性の因子、第II因子は健康・活動性・力量性に関する因子と考えられる。2つの因子しか得られず、第I因子は84.0%の高寄与率であった。

「精神薄弱児」 3つの因子が登場したが、次のように名づけることができよう。I-評価性の因子、II-障害の因子、III-力量性の因子。

「肢体不自由児」 日本と韓国の場合と異なって2つの因子しか得られなかった。また、第I因子の寄与率が91.3%もの高率であることが特徴的であった。第I因子は活動性・力量性、障害の因子、第II因子は評価性の因子と考えられる。

「盲児」 第I因子は障害の因子、第II因子は

評価性の因子、第III因子は活動性・力量性の因子と推察される。盲児は3つの因子があらわれた。

④日本、韓国及び台湾における意味空間の違い
「健常児」 健常児ということばに対して日本人のもつ意味空間は、主として快、美しい、良いというような評価性の観点で構成されている。しかも、日本人の意味空間は比較的分化していて、多面的である。日本での健常児に対するイメージは、良い子、強い子、活動的な子というように、それぞれ異なったイメージが作られているが、韓国や台湾では、良くかつ強くかつ活動的な子どもというように複合的なイメージが持たれている傾向がうかがえる。

「老人」 老人は、三か国でそれぞれ異なった意味空間が作られていた。日本の場合、老人ということばの意味空間は、主として力量性の観点から作られており、韓国では、障害の観点から、台湾では、隔絶の観点、つまり自分とはかけ離れた重い存在であると見ている傾向、から作られている。

「孤児」 最も高い寄与率を示した因子は、三か国とも評価性の因子であって、その間に違いはない。これは健常児と同じ因子でもある。しかし、日本は4、韓国は3、台湾は2というように、因子の数に差が見いだされた。このことは、健常児の場合と同様、日本では孤児のイメージが他の二か国、特に台湾よりも分化している可能性を示唆している。

「精神薄弱児」 韓国では主としてその意味空間が、障害の観点から作られていたのに対して、日本ではそれと異なり、台湾と同様、快、良い、美しいというような評価性の観点から作られていた。精神薄弱児ということばに対する日本人の反応の因子分析で見いだされた、評価性の因子は、健常児で見いだされた因子と、ほぼ同じものであると考えることができる。

「肢体不自由児」 日本は性格行動、韓国は障害・活動性・力量性、台湾は活動性・力量性・障害の因子によって主として意味空間が構成されている。韓国と台湾は、ほぼ同一の意味空間が作られていると考えられるが、日本は他の二か国とまったく違うのが特徴的である。

「盲児」 盲児の場合、三か国でそれぞれ異なった因子によって意味空間が作られていた。日本は

健康、力量性の因子、韓国は評価性の因子、台湾は障害の因子であった。能力の観点から盲児のイメージを作りあげている点に、日本の特徴があるといえよう。

考 察

(1) 障害児・者に対する日本人の態度

本研究の結果は、以下のようにまとめることができる。

各概念ごとの尺度の得点を結んで描いたプロフィールの特徴から判断すると、日本の大学生のイメージは次のようである。

「健常児」 健康で、明るく、陽気な、騒がしい、身近かの子ども。

「老人」 遅く、弱くて、小さく、病気の存在だが、静かで、軽く、身近かである。

「孤児」 暗く、悲しい、けれども強く、健康な子ども。

「精神薄弱児」 遅くて、弱い、けれども、明るくて陽気な子ども。

「肢体不自由児」 遅く、悲しい、病気の子ともであるが、陽気で、身近かな子ども。

「盲児」 遅く、弱い、静かな子ども。

また、因子分析の結果にもとづくと、各概念は、次のような因子によって主な意味空間が構成されていた。

「健常児」 評価性の因子

「老人」 力量性の因子

「孤児」 評価性の因子

「精神薄弱児」 評価性の因子

「肢体不自由児」 性格行動の因子

「盲児」 健康・力量性の因子

これまで行われた、伊藤ら(1967)、忍(1967)、高瀬ら(1968)、三沢(1969)、森田(1972)等による研究によれば、障害児・者に対する日本における一般人のイメージや態度は、概して、否定的なものであった。それらは、本研究で使用した尺度を用いれば、「陰気で、暗く、悲しい、病気の子ともで、かけ離れた子ども」というイメージにほぼ等しい。しかしながら本研究は、調査対象とした大学生の場合、こうした研究方法で調べた限り、プロフィールの解釈と意味空間の吟味からわかるように、現在、そのようなステレオタイプな見方はあまりなされていないことを示している。また、

各障害児に対して、それぞれ異なった観点からイメージが作りあげられているのも特徴的である。ステレオタイプを離れて、現実 に即した適切な見方をする ことは好ましいことであって、こうした見方への変化は、この数年間急激に高まった啓蒙活動等の成果によるものであろう。また、ボランティア活動での障害児との接触や、障害を持った学生の大学への入学などの障害児・者との経験の増加も、大きな影響を与えていると考えられる。

しかし、本研究はその対象が大学生だけであることから、こうした結果を、すべての一般人に拡大することは慎重にしなければならない。

(2) 三か国の比較

三沢 (1971) は、Jordan, J. E. らと協同して、日本、アメリカ、イスラエル等における障害児・者に対する意識についての研究を行い、日本人の態度や意識は比較的好意的であるが、内面的にかなり矛盾があり、依然としてネガティブな態度が底流をなしており、日本はアメリカと対照的で、イスラエルの東洋系グループと一部類似したパターンを示していることを明らかにした。しかし、最近総理府の実施した調査 (1982) によれば、日本人の障害者問題に関する知識や意識は、欧米諸国に比べて決して低くない。たとえば、障害者問題に対する関心の程度も、障害者で文学、絵画、音楽など芸術の分野でも、立派に活動している人が多いと思うかというような認識の程度も、東京はロサンゼルス、パリ、ハンブルグ、ストックホルム等とほとんどかわりがなかった。さて、アジアの三か国を比較すると、同じアジアの国でも、日本のイメージにはいくつかの特徴が認められる。その主要な点は、健常児や孤児ということばで見い出された因子の数が日本が多かったこと、プロフィール上の、明るい、陽気な、身近かなという尺度で日本の得点が高かったこと、障害児ということばのすべてで障害の因子以外の因子が大きな意味空間を作っていたこと、である。

まず、健常児等のことばで見い出された因子の多さについてであるが、その原因の一つを価値観に求め、現代の日本にみられる多様な価値観が反映された結果であると考えることができるだろう。現在、日本では、政治、経済、社会、文化のすべてで、さまざまな価値観が主張され、対立している。このような多様な価値観が児童のイメー

ジのとらえかたにも影響して、人々は児童を、単一の視点でなく、多面的にとらえ、その結果、それらを表わすことばの中に、多くの因子が出現したのではないか。

次に、障害児を表わすことばのそれぞれで得られた、第 I 因子における障害の因子の有無と、明るい、陽気な、身近かな等の尺度の得点の違いについて考えてみたい。障害児・者の実態は、決して「陰気で、暗く、悲しい、病気の子どもで、かけ離れた存在」ではない。個人差はあるが個々の障害児はむしろ明るく、うれしい子どもであり、障害の問題や障害児・者は、一般の人々にとって身近かでさえある。障害児がすべて暗くて、悲しいというステレオタイプなイメージは、歴史的、社会的に作りあげられたフィクションであると言える。

韓国と台湾では障害の因子が出現したが、これらの国々でも、たとえば、崔 (1982) が脳性まひ児の娘を育てた手記の中で韓国の社会の一部に残されている因果応報思想や人々の偏見と無理解を強く訴えていることからわかるように、日本と同様に、根強い歴史的、社会的誤解や偏見が一部に残存することが推測される。そして、それらが、ステレオタイプな見方として第 I 因子に障害の因子という形であらわれたと考えることができる。しかし、両国ともそれらの是正は障害児・者の教育や福祉における緊急の課題とし、その努力を行なっているにちがいない。日本でもそうしたステレオタイプな見方は先行研究で明らかにされたようにこれまでかなり有力であった。しかし、かならずしも充分とは言えないが、是正の努力がなされ、その効果が日本の場合ある程度あらわれ、それが第 I 因子における障害の因子の欠如という形で出現したのではないだろうか。しかし、これらの誤解や偏見はまだ少なからず残されており、欧米諸国だけでなく、韓国や台湾にも学び、障害児・者についての正しいイメージを作るためにさらに努力を続けなければならない。

最後に、本研究を実施するにあたって、次のような方々に御指導ならびに御援助をいただきました。心から感謝申し上げます。

釜山女子専門大学	鄭 南伊学長
大邱大学校	安 乗輯教授
三育再活学校	郭 俊杞校長

文 献

- 1) 崔京子 (1982) : この罪なき子に光を, 現代史出版会.
- 2) 伊藤隆二他 (1967) : 心身障害に対する社会人の態度 (偏見) に関する研究, 特殊教育学研究, 5, 1-13.
- 3) 岩下豊彦 (1983) : SD 法によるイメージの測定, 川島書店.
- 4) 三沢義一 (1969) : 身体障害者 (児) に対する一般人の態度について, 三重大学教育学部研究紀要, 42, 43-58.
- 5) 三沢義一 (1971) 身体障害に対する態度とその比較文化的考察, 特殊教育学研究, 9-1. 27-33.
- 6) 森田望 (1972) : 精神薄弱児に対する意識調査, 精神薄弱児研究, 171, 60-69.
- 7) 忍博次 (1967) : 身体障害者に対する偏見の研究—価値志向, 受容度, ステレオタイプに関して, 北星論集 4, 53-75.
- 8) 総理府障害者対策推進本部担当室 (1982) : 障害者問題に関する国民の意識についての国際比較調査結果の概要.
- 9) 高木修 (1976) : 西田春彦他編, 社会調査の理論と技法II, 川島書店.
- 10) 高瀬安貞他 (1968) : 教育及び身体障害者に対する日本人の態度, 特殊教育学研究, 6, 34-41.

別表1. [健常児]

(1)	明るい	まったく	かなり	やや	どちらでもない	やや	かなり	まったく	暗い
(2)	優しい	まったく	かなり	やや	どちらでもない	やや	かなり	まったく	厳しい
(3)	元気な	まったく	かなり	やや	どちらでもない	やや	かなり	まったく	疲れた
(4)	素直な	まったく	かなり	やや	どちらでもない	やや	かなり	まったく	強情な
(5)	健康な	まったく	かなり	やや	どちらでもない	やや	かなり	まったく	病気の
(6)	純粹な	まったく	かなり	やや	どちらでもない	やや	かなり	まったく	不純の
(7)	幸福な	まったく	かなり	やや	どちらでもない	やや	かなり	まったく	不幸の
(8)	良い	まったく	かなり	やや	どちらでもない	やや	かなり	まったく	悪い
(9)	楽しい	まったく	かなり	やや	どちらでもない	やや	かなり	まったく	苦しい
(10)	美しい	まったく	かなり	やや	どちらでもない	やや	かなり	まったく	醜い
(11)	活動的な	まったく	かなり	やや	どちらでもない	やや	かなり	まったく	非活動的な
(12)	快	まったく	かなり	やや	どちらでもない	やや	かなり	まったく	不快
(13)	普通の	まったく	かなり	やや	どちらでもない	やや	かなり	まったく	特別な
(14)	大きい	まったく	かなり	やや	どちらでもない	やや	かなり	まったく	小さい
(15)	自由な	まったく	かなり	やや	どちらでもない	やや	かなり	まったく	不自由な
(16)	強い	まったく	かなり	やや	どちらでもない	やや	かなり	まったく	弱い
(17)	積極的な	まったく	かなり	やや	どちらでもない	やや	かなり	まったく	消極的な
(18)	陽気な	まったく	かなり	やや	どちらでもない	やや	かなり	まったく	陰気な
(19)	静かな	まったく	かなり	やや	どちらでもない	やや	かなり	まったく	うるさい
(20)	早い	まったく	かなり	やや	どちらでもない	やや	かなり	まったく	遅い

- | | | | | | | | | | |
|------|----------|------|-----|----|---------|----|-----|------|--------|
| (21) | うれしい | まったく | かなり | やや | どちらでもない | やや | かなり | まったく | 悲しい |
| (22) | がまん強い | まったく | かなり | やや | どちらでもない | やや | かなり | まったく | わがままな |
| (23) | 軽い | まったく | かなり | やや | どちらでもない | やや | かなり | まったく | 重い |
| (24) | 独立した | まったく | かなり | やや | どちらでもない | やや | かなり | まったく | 従属的な |
| (25) | 動く | まったく | かなり | やや | どちらでもない | やや | かなり | まったく | 止まる |
| (26) | 生き生きした | まったく | かなり | やや | どちらでもない | やや | かなり | まったく | 生気のない |
| (27) | おもいやりのある | まったく | かなり | やや | どちらでもない | やや | かなり | まったく | 冷淡な |
| (28) | 行儀のよい | まったく | かなり | やや | どちらでもない | やや | かなり | まったく | いたずらな |
| (29) | 遊ぶ | まったく | かなり | やや | どちらでもない | やや | かなり | まったく | 働く |
| (30) | かわいい | まったく | かなり | やや | どちらでもない | やや | かなり | まったく | にくい |
| (31) | 従順な | まったく | かなり | やや | どちらでもない | やや | かなり | まったく | なまいきな |
| (32) | 無邪気な | まったく | かなり | やや | どちらでもない | やや | かなり | まったく | 悪気の |
| (33) | 派手な | まったく | かなり | やや | どちらでもない | やや | かなり | まったく | 地味な |
| (34) | 大ぜいの | まったく | かなり | やや | どちらでもない | やや | かなり | まったく | 孤独な |
| (35) | 親切な | まったく | かなり | やや | どちらでもない | やや | かなり | まったく | いじわるな |
| (36) | 仲間の | まったく | かなり | やや | どちらでもない | やや | かなり | まったく | 仲間はずれの |
| (37) | 自立的な | まったく | かなり | やや | どちらでもない | やや | かなり | まったく | 依存的の |
| (38) | 新鮮な | まったく | かなり | やや | どちらでもない | やや | かなり | まったく | くさった |
| (39) | 努力する | まったく | かなり | やや | どちらでもない | やや | かなり | まったく | 怠ける |
| (40) | 身近かな | まったく | かなり | やや | どちらでもない | やや | かなり | まったく | かけ離れた |

別表2. 「肢体不自由児」

(1)	めぐまれた	まったく	かなり	やや	どちらでもない	やや	かなり	まったく	かわいそうな
(2)	良い	まったく	かなり	やや	どちらでもない	やや	かなり	まったく	悪い
(3)	自由な	まったく	かなり	やや	どちらでもない	やや	かなり	まったく	不自由な
(4)	美しい	まったく	かなり	やや	どちらでもない	やや	かなり	まったく	醜い
(5)	簡単な	まったく	かなり	やや	どちらでもない	やや	かなり	まったく	大変な
(6)	快	まったく	かなり	やや	どちらでもない	やや	かなり	まったく	不快
(7)	明るい	まったく	かなり	やや	どちらでもない	やや	かなり	まったく	暗い
(8)	きれいな	まったく	かなり	やや	どちらでもない	やや	かなり	まったく	汚い
(9)	軽い	まったく	かなり	やや	どちらでもない	やや	かなり	まったく	重い
(10)	親切な	まったく	かなり	やや	どちらでもない	やや	かなり	まったく	いじわるな
(11)	便利な	まったく	かなり	やや	どちらでもない	やや	かなり	まったく	不便な
(12)	公平な	まったく	かなり	やや	どちらでもない	やや	かなり	まったく	不公平な
(13)	根性のある	まったく	かなり	やや	どちらでもない	やや	かなり	まったく	軟弱な
(14)	大きい	まったく	かなり	やや	どちらでもない	やや	かなり	まったく	小さい
(15)	努力する	まったく	かなり	やや	どちらでもない	やや	かなり	まったく	怠ける
(16)	陽気な	まったく	かなり	やや	どちらでもない	やや	かなり	まったく	陰気な
(17)	楽しい	まったく	かなり	やや	どちらでもない	やや	かなり	まったく	苦しい
(18)	繊細な	まったく	かなり	やや	どちらでもない	やや	かなり	まったく	粗野な
(19)	意志の強い	まったく	かなり	やや	どちらでもない	やや	かなり	まったく	意志の弱い
(20)	穏やかな	まったく	かなり	やや	どちらでもない	やや	かなり	まったく	興奮した

- (21) 運動できる | まったく | かなり | やや | どちらでもない | やや | かなり | まったく | 運動できない
- (22) 緊張した | まったく | かなり | やや | どちらでもない | やや | かなり | まったく | 弛緩した
- (23) 強い | まったく | かなり | やや | どちらでもない | やや | かなり | まったく | 弱い
- (24) 能動的な | まったく | かなり | やや | どちらでもない | やや | かなり | まったく | 受動的な
- (25) 積極的な | まったく | かなり | やや | どちらでもない | やや | かなり | まったく | 消極的な
- (26) 歩ける | まったく | かなり | やや | どちらでもない | やや | かなり | まったく | 歩けない
- (27) 静かな | まったく | かなり | やや | どちらでもない | やや | かなり | まったく | うるさい
- (28) 早い | まったく | かなり | やや | どちらでもない | やや | かなり | まったく | 遅い
- (29) うれしい | まったく | かなり | やや | どちらでもない | やや | かなり | まったく | 悲しい
- (30) 忍耐強い | まったく | かなり | やや | どちらでもない | やや | かなり | まったく | へこたれやすい
- (31) 健康な | まったく | かなり | やや | どちらでもない | やや | かなり | まったく | 病気の
- (32) 優しい | まったく | かなり | やや | どちらでもない | やや | かなり | まったく | 厳しい
- (33) やわらかい | まったく | かなり | やや | どちらでもない | やや | かなり | まったく | かたい
- (34) 身近かの | まったく | かなり | やや | どちらでもない | やや | かなり | まったく | かけ離れた
- (35) 楽をする | まったく | かなり | やや | どちらでもない | やや | かなり | まったく | 苦勞する
- (36) 大ぜいの | まったく | かなり | やや | どちらでもない | やや | かなり | まったく | 孤独な
- (37) 普通の | まったく | かなり | やや | どちらでもない | やや | かなり | まったく | 特別な
- (38) 幸運な | まったく | かなり | やや | どちらでもない | やや | かなり | まったく | 不運な
- (39) なめらかな | まったく | かなり | やや | どちらでもない | やや | かなり | まったく | ぎこちない
- (40) 自立的 | まったく | かなり | やや | どちらでもない | やや | かなり | まったく | 依存的

Summary

A Cross-Cultural Investigation of College Students Attitudes toward the Handicapped in Japan, Korea and Republic of China

G. Misawa, T. Nakatsukasa and K. Kawama

The technique of Semantic differential was used to explore images held about words describing the handicapped by college students in Japan, Korea and Republic of China.

The words studied in the investigation were "Kenjoji (Normal Child)", "Rōjin (Old Man)", "Koji (Orphan)", "Seishinhakujakuji (Mentally Retarded Child)", "Shitaifujiyūji (Crippled Child)", and "Mōji (Blind Child)".

The findings indicated that the images which Japanese students have of the words and the factors which prominently describe the semantic space where the words may be ordered are as follows. Mentally Retarded Child-Slow and weak, but bright (not Dark) and merry child (Factor of Evaluation). Crippled Child-Slow, sad and sick, but merry and near child (Factor of Personality). Blind Child-Slow, weak and quiet child (Factor of Health and Potency).

The responses of Japanese students differed characteristically from Korea and Republic of China in the following.

(1) Japanese students put the score higher than the two countries on such semantic scales as Bright (not Dark), Merry and Near.

(2) Factors which emerged from the factor analysis of the responses to the word Normal Child were larger in number than the two countries.

(3) The first factor, which describes the semantic space in which the words, Mentally Retarded Child, Crippled Child and Blind Child may be ordered, was not Factor of Handicap (negative image, of a stereotype and from old times, to the handicapped) unlike the two countries.

The results were discussed from such point of view as difference in history and culture among Japan, Korea and Republic of China.